

がんばろう
南三陸町
復興第38号

南三陸マイタウン情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
志津川広報センター
企画・編集 千葉伸孝

— 防災対策庁舎「県有化」の動き(2月)④ —

◎防災庁舎の「県有化」に請願 議会の審議焦点(12日)

11日町内有志から「県有化」の受け入れを求める請願書が提出された。請願書の紹介議員として町議選初当選の5人中4人の新人であった。議会では24年9月に遺族からの「早期解体」の陳情が採択され、佐藤仁町長も「解体」と決定している。県有化の動きの中で、現在回答を保留し、再度検討していく考えを示している。

議員の声として「議会として解体を採択している。今更議論する必要はない」「前回とは状況が変わり、町民も冷静に議論を求めている。再度議論するのは当然」、ベテラン議員は「25年10月の改選後、3分の2は前回と同じ、議会は継続性が原則であり、改選ごとに方針が変わるのはいかがなものか」と、議員間でも様々な防災庁舎の解体の是非の考え方となっている。

◎佐藤町長「町民の意見を聞く場設ける」 (13日)

13日の町議会「震災対策特別委員会」の質疑の中で、「県有化」に対する町民から意見を聞く手法は庁内で検討していくが、県から求められている回答の期間について「時間はかけられない」と、早い時期に考えを伝える意向を示した。

25年9月の解体は①町の財政負担②復興事業への支障が大きな理由と強調した「知事から投げかけられたので、あらためて検討したい」と答弁した。

議場には庁舎で犠牲となった職員遺族15名が傍聴し、町長の答弁は「あいまいで不信感を覚える」と議会の質疑答弁を聴き、話す。

◎県議会で内海、境両議員が防災庁舎「県有化」をたじた(19日)

気仙沼・本吉選出の両議員は登壇し、村井知

事の南三陸町防災庁舎の20年間43年までの「県有化」について一般質問をした。

両氏は「地元住民や遺族の意見を知事が聞き、方針を説明すべき」とたじた。知事は「現在町で検討している。町の意向が決定した上で、必要であれば町へ出向き説明する」と答えた。町の回答についても「劣化が進んでいるので早期にと望んでいる」とも答えた。

◎「県有化」を求める町民有志の請願書に議会特別委員会に付託し継続審査とした

「県有化」の請願書に対する対応を、町議会の「議会運営委員会」は震災対策特別委員会に付託し、継続審査とする事も決めた。

協議は非公開で行われた。後藤委員長によると町議会が24年9月早期解体の陳情を全会一致で採択している。「再考するのは不自然であり、不採択とすべき」などの意見が出された。

特別委員会は議長を除く議員15人で構成する。3月定例会の会期中に審査する可能性もある。「保存」を求める請願書と「県有化」の打診は、佐藤町長の決断に影響を与える可能性もあり、対応が注目される。

第1回志津川市街地換地説明会

4月30日町庁舎2階会議室において志津川市街地換地の、事業計画変更について行政とUR都市機構による説明会が開催された。

はじめに工事の進捗についてで、大森町南側においては土地区画整理事業と並行して、宮城県が施工の防潮堤や県道の橋脚が建設中と説明された。

事業変更概要では、①申し出換地の形成と道路②河川堤防・防潮堤と橋の台③道路を見直し、宅地部分を大きくした等が説明された。集まった地権者は話を聞くだけに留まった。

27年5月7日～5月20日の間、事業計画変更(第1回)の法定手続きとして、役場内で事業案の縦覧が行われた。

今後の換地への進め方では、27年6月～7月「仮換地案の個別説明」があり、地権者への仮換地の位置・地積等の詳細説明。27年9月以降順



次に「仮換地指定」事業の進捗に合せ土地区画整理審議会の意見を聴き、縦覧の土地を仮換地に移行させる手続きへ。宅地完成後順次「仮換地の使用収益開始」仮換地の宅盤及び周辺道路等の工事完了後に引き渡し、使用収益開始日から使用ができる。これが仮換地から使用開始までの流れです。

個別説明会、南三陸会場として6月11～14日、6月22～24日、6月28日、6月30日～7月2日、役場会議室・アリーナ大会議室・ポータルセンターで日にちにより会場が変わる。登米会場は6月16～17日南方イオン仮設1期集会所。仙台会場と東京会場も指定の日時と場所で開催される。

(志津川地区復興区画整理だより4号・仮換地地権者へのお知らせより) 詳細は町まで

友好支部として大阪府印刷工業組合の 60周年記念式典に参加して

5月22日 ホテルニューオオタニ大阪



感謝の気持に南三陸産ワカメが大好評

大阪府印刷工業組合60周年記念式典・祝賀会が、ホテルニューオオタニ大阪で開催され、会場には組合員・来賓・関連企業など400名が集まった。

「友好支部締結」をして頂いた、「東大阪支部」は46社が加盟する組織で、宮城県本吉・気仙沼支部は6社加盟の小さい支部です。東日本大震災の被災地支援で、地元同業者支援に留まらず、被災地の宿泊や買い物を、来町の度に支援し、東大阪支部のイベントでは、南三陸町の商店販売の品々を、景品として支部会員に配った。

今回の式典・祝賀会会場入口には、友好支部となった、東大阪市・南三陸町の特設テーブルが設けられ、大震災後に地元2社(佐藤印刷・

千葉印刷)が、それぞれ作成した商品や南三陸町観光パンフレットを展示し、応援義援のご支援をいただいた。また、東大阪支部で買い求めた「南三陸産ワカメ」200袋を募金協力してくれた方々に配り大喜びされた。

今回の応援金の中から地元NPO法人に1万円余りを支援金として贈った。

永谷支部長さんの支援の熱意には、アイデアも含め頭の下がる思いだ。そして、今回は被災地支援として大阪印刷工業組合の吉田理事長から、これまでの功績と活動貢献に感謝状が贈られた。

祝賀会では400名の参加者を前に、大阪の有名司会者が「南三陸町の方々に来られています。皆様のご支援をお願いします。」と、会の途中で紹介してくれた。

被災地「南三陸町」を大阪の人達に伝えられた。大阪府印刷工業組合・東大阪支部、そして、永谷支部長さんと会員の皆さんに重ねて御支援に感謝・感謝の一日だった。

南三陸金華山国定公園が3月31日 「三陸復興国定公園」に編入告示



1955年5月2日に陸中海岸国立公園になったが、2011年に発生した東日本大震災による津波で大きな被

害を受け、震災からの復興および被害の伝承を目的として、2013年5月24日青森県の種差海岸及び八戸市鮫町の2地区を編入し、宮城県気仙沼市までを「三陸復興国立公園」とした。

そして、今回3月31日に本吉町から南三陸町を含めた石巻市までの「南三陸金華山国定公園」が復興国立公園に編入の告示がされた。

地形的には北部が典型的な隆起海岸で、50～200mの大規模な海食断崖が連続し、その間に砂浜海岸が見られる。一方宮古以南は典型的なリアス式海岸であり、陸地の沈降によって形成される。

南三陸町には景勝地「神割崎」があり、オートキャンプ場や食事のできる「神割崎プラザ」があり、南三陸の海の幸の食材を楽しむ(定休日は火曜日)。また、歌津地区の長須賀海水浴場があり、志津川地区の「サンオーレ袖浜海水浴場」も今後復旧工事が予定されている。また、残った民宿と再建された民宿で、南三陸町の海の新鮮食材が味わえる。

南三陸町にもビジターセンターが戸倉地区に建設予定で、現在、岩手には「浄土ヶ浜」と「宮古姉ヶ崎」があり、宮城県には「唐桑半島」がある。3つのビジターセンターには、浄土ヶ浜の約16万人を含め合計で17万人余りが訪れている(平成20年データ)。

また、三陸復興国立公園「神割崎」を町内の小学校の「ふるさと学習会」では、郷土の景勝地を巡り歴史や言い伝えを聞き、リアス式海岸などの特殊地形を学ぶ場所として利用している。



未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成27年(2015年)
～地元報道より～

2月の出来事

◇南三陸町歌津地区の「柘沢災害公営住宅」が2月完成し、入居が始まった。入谷・名足に続く3棟目で、次は来年3月の戸倉・伊里前の完成が予定されている。

◆気仙沼市の国民宿舎の「からくわ荘」が復興需要を追い風に宴会などを中心に利用が好調となっている。

◆気仙沼市内で計画される28地区の約2200戸の、災害公営第1号の南郷住宅の一部が31日入居を開始する。

◇南三陸町地域観光復興協議会(阿部隆二郎代表)が県の「おもてなし大賞」に輝いた。作成した「南三陸てん店まつり」が高い評価を得た。協議会は被災した76店舗が組織し、25・26年の2年間で計8万6千部を発行した。町内の商店を地図で紹介し、スタンプラリーで特産品が当たる企画や、仙台市内でも配るなど町への誘客活動にもなっている。

◇南三陸町は所有する「神割崎キャンプ場」と「神割崎プラザ」の指定管理者の地元管理者が運営を断念したため、指定管理者を公募した。27年4月1日から5年間の指定管理への委託となる。

◆気仙沼広域消防本部が26年の火災統計を発表した。発生は前年度と同じ32件で、建物火災が17件で全焼が多く過去10年(23年は除く)で最悪の1億7千万円の損害額となった。

◆宮城県漁協のワカメ共販の入札が気仙沼市波路上の流通センターで、全国のトップを切り入札が行われた。10k当たり平均単価5199円と昨年を1千円上回り、震災前の22年の水準を回復した。

防災庁舎前の川沿いの道路は
河川堤防工事のために通行止めとなっている(6月)



現在入り回らう回路道の防災庁舎の裏側からとなっている

◇26年救急統計が発表され出動件数は3417件で搬送人員は3051人、震災の年を除き過去10年で最多となった。6割以上が65歳以上の高齢者となっている。

◇「南三陸町を勝手に支援し隊」が結成された。都内や北海道などの医療従事者が200人で組織し、南三陸町の医療や介護の復興の後押し、住民のコミュニティーづくりやビジネス支援など応援団として支援する。

◇町内入谷地区にボランティアと町民の交流拠点が、南三陸森林組合により建設中だった「山小屋」が完成した。商工中金の支援により「ANAこころの森」の敷地内に建てられた。これまでも全日空の新入社員の研修として間伐などをしてきた。今年4月には東芝のグループ会社の1200人による林業体験も計画されている。

◇南三陸町防災会議の初会合が6日開催された。県が特別警戒区域に11カ所を指定し、対策などを検討した。

◆気仙市は庁舎建設へ14年ぶりに一般財源に1億円の基金の積み立てをする。現在の基金残高は5100万円が金利も含め1億円がプラスとなる。

◆気仙沼市は過疎債を18事業に活用を計画している。今回「子ども医療費助成」の9380万円のうち県補助を除く8060万円に過疎債を活用する。組み替えによる財政負担軽減ながら、あ

くまでも借金でありムダのない活用が求められる。

◆気仙沼市土木事務所は復旧工事の着手率は92%で、道路・橋梁は8割が完成しているなど状況をまとめた。

◇南三陸町戸倉地区で「少しの手掛かりでも」と、南三陸警察署と町で合同集中捜索がおこなわれた。

◇歌津館浜仮設の在来工法の仮設住宅5戸を、歌津中学校の敷地内のゲートボール場に解体移築し、町営住宅としてUターン者などの定住促進に利用する。

◇南三陸町「観光特区」の説明会が復興庁の担当者から町内の4事業所が参加し、固定資産・不動産取得などの減免となる特区としての説明を受けた。町は「また来たい、また住みたい」などの地域づくり・観光振興推進計画により、観光特区として認定されている。

防潮堤工事が本格的に始まり海抜10mにも達する壁が建設中です(5月)



海岸道路も凸凹と大きなカーブに要注意

◇志津川魚市場のある大森地区南堤防に、4年ぶりに本格的な防潮堤灯台が今月6日から運用を開始した。震災前にあった5基のうち1基が再建され、残り4基も工事の進捗を見て再建運用を図る。

◇JR気仙沼線の「復興会議」が開かれぬまま1年間が経過する。復旧工事費の700億円と予算の確保のめどが立たない。気仙沼線関係自治体も復旧に道険しさが感じとれる。そんな中で仙石線が5月30日に全線開通となり気仙沼線だけ取り残されている。

◇南三陸町は第1号被保険者(65歳以上)の現行4500円から月額6千円に、介護保険料を引き上げる方針が示された。一般財源からの補填が「財政調整基金が底をつき」繰り入れできないのが増額の理由だと語る。

◆14日安倍首相が気仙沼市「南郷災害公営住宅」などを視察、来市。

◆気仙沼市で復興庁が支援の大手と地元企業とのマッチング「結の場(ゆいのば)」を開催し、販路の開拓に力を貸してと集まった。

◇志津川魚市場のサケの水揚げは、今季約6万匹で金額は8億3700万円が続けてきた県内一を、石巻に明け渡した。

◇14日志津川地区災害公営住宅入居者の「くらしの懇談会」が開催された。入居者は共に暮らす方々と早く打ち解けあい、新生活を始めたいと話す。

◆気仙沼・本吉地方の被災農地の圃場地をネギの一大産地へと、組合を組織した。まずは3区4.5haの復旧農地で栽培をはじめた。

◆気仙沼市の25年度の年齢別異動者数が発表され、震災後のUターン・Iターンで25～40歳の転入が大幅に増加した。反面15～24歳では転出が転入を大きく上回っている。定住化対策が急務で、雇用確保や子育て支援の充実が求められている。

◇南三陸町の友好町の「庄内町」から、交流漁業体験の「ワカメの刈り取り」が4年ぶりに復活し、24名が復旧した伊里前漁港で実施した。

◇町立南三陸病院(仮称)が10月完成へ順調に工事が進み、建物の一部上屋が見えるまでになった。総合ケアセンターも併設し、町の医療・保健・福祉の拠点施設として、町民も完成を待ち望んでいる。

◆気仙沼高校と気仙沼西高校の統合にあたり、校歌は気仙沼高校を使用することを決めた。

◇志津川高校では管内では珍しい「アイパッド」の携帯情報端末を利用した授業に力を入れ、即戦力育成として就職に備え授業に取り入れている。

南三陸町人口推計で10年後(平成37年)人口は9,444人、高齢化率は40.6%に

町内の人口は被災前に1万7,666人だったが、27年1月末現在では1万4,112人となり、2割の3,554人が減少した。高台移転の造成は順調に進んでいるものの、かさ上げを待ちきれなく登米市への自己再建や災害公営への入居など、人口流出の歯止めにはいたっていない。来年28年には1万3,144人33.5%、震災10年後(32年)には1万1,554人36.7%。そして現在からの10年後(37年)は9,444人と1万人を割り、高齢化率は40.6%と、総人口と高齢化率の見込み(推計値)であることが分かった。(調査方法は「コーホート法」で直近の年齢や男女別人口の変化率を加味して推計した)

◇18・19日南三陸町議会では「集中復興期間延長」を中央へ要望、長嶋復興副大臣に要望書を手渡した。

◇気仙沼市・南三陸町の死因のトップは悪性新生物(ガン)で20年間同じで、3割を占め、心疾患、脳梗塞、ガンを含めた「三大生活習慣病」が6割となっている。気仙沼保健福祉事務所では、「禁煙・節酒・運動を」と呼び掛けている。

◇南三陸町では高校3年まで医療費無料化や保育料減額に取り組むことを決めた。財源は「過疎債」「ふるさと納税」を活用する。人口減少の歯止めと子育て支援の充実を図る。

◇3月開催の「国際防災会議」に先立ち、イベントとして南三陸町で各国の女性リーダーが集まる事が決まった。防災対策に取り組む女性リーダーが海外に活動を発信する。

◇JA南三陸では、春告げ野菜など関連商品の発表・試食会を南三陸ホテル観洋で開催し100人が集まった。新商品の「春告げイチゴ」が紹介され、ブランド化へ大好評を得た。

◇入谷地区のハナモモの出荷がピークを迎えている。グリーンウエーブ入谷構想促進委員会の桃源郷部会が取り組み10年となる。現在15軒が栽培している。

◇世界最古の化石「クダノハマギョリュウ」の南三陸町「化石の町歌津」が、魚竜館の復旧工事が始まることとなり、化石の町が復活する。

◇国際防災会議にあたり、世界各国の海外メディアが24・25日の両日南三陸町を訪れ、復興の現状や水産業のギンザケ・カキ・ホヤの養殖場を見学し、防災対策庁舎を世界に発信した。

旧新井田地区の河川・国道のルート変更にあたり工事が始まった(6月)



志津川市街地から新井田地区の大きなう回路に通行注意を!

◇南三陸町遠藤健治副町長(66)は、3月末をもって退任する。後任には最知明広氏(53)が選任される。最知氏は被災前は病院総務課長として、23年4月から保健福祉課長を歴任した。

◇南三陸町では26・27年度の35事業に、55億9100万円が交付金として認められた。

◇南三陸町は今年10月に10周年を迎え、合併特例債が終了する。今回の大震災により10年間延長で20年間合併特例債活用が可能となった。(特例債は事業債の95%に充当でき、70%が国から交付税借付され、入小新築や名足保育所、伊里前小、名足小の耐震事業などに使われた。)10年間の延長にあたり、庁舎本所と歌津出張所新築に特例債を活用する。特例債の枠は43億円と変わらない。